

第 84 回全国民生委員児童委員大会 挨拶

ここ富山の地で、平成 27 年度の第 84 回全国民生委員児童委員大会が盛大に開催されますことを、まずは心からお慶びを申し上げます。

また、全国民生委員児童委員連合会の堀江会長や、富山県民生委員児童委員協議会の得能会長をはじめ、地元関係者のご尽力により、この素晴らしい大会を開催いただき、心から感謝を申し上げます。

そして、栄えある表彰を受けられる皆様方に対し、心からお祝いを申し上げ、引き続きのご活躍に期待を申し上げます。

民生委員制度は先ほどの堀江会長の式辞にもありましたとおり、すでに 100 年近い歴史があるわけがございます。本当に多くの先輩方がそれぞれの地域でご活動いただいて、この日本が成り立ってきました。民生委員・児童委員の皆様方には、その自負と誇りと、やはり自信を持って引き続き地域づくりのために頑張っていたいただきたいと思います。

民生委員信条には、隣人愛に満ち、そしてまた助け合いの心で成り立ち、さらには自立の援助を行うことが示されています。地域社会の健全な発展は、こうした自立支援を基本に活動する民生委員・児童委員の存在なくしてあり得ないとの想いを新たにしています。

今、急速な少子高齢化が進み、人口も減少を始めています。安倍総理は新たな三本の矢というのを発表いたしました。その大前提になるのは、人口減少を 1 億人で止め、あらゆる人たちが、活躍できる社会を改めて作り直していくことにあり、私どもも、全力で取り組んでいくことにしています。

厚生労働省では、介護保険制度の見直しがあり、障害者総合支援法の見直しも目前に控え、生活困窮者自立支援法はこの 4 月から施行されました。こうした社会保障の充実・強化を進める一方で、深刻な児童虐待の問題も起きています。先ほど申し上げた新三本の矢の 2 番目は、子ども・子育て支援に関してですが、子どもを取り巻く環境が大変厳しい中、新たな子ども家庭福祉のあり方を構築していくことが必要です。

とくに出産前や子育て中の母親、父親の孤立は大変重要な問題です。

現在、私たちは来年の通常国会に向け、自ら声を出せない子どもたちに代わって、本当の意味で健全な育成が担保される法律とすべく児童福祉法の見直しを行っています。もちろん児童相談所や市町村の役割も重要ですが、民間の皆様のお力を借り、パートナーシップを組んでいかなければならないし、とくに民生委員・児童委員の皆様にはさらに大きな役割を担っていただきたいと思います。

厚生労働省としても、地域のことを最もよくご存知の民生委員・児童委員の皆様に、力を発揮していただくため、引き続き活動しやすい環境作りのために尽力する所存であります。

最後になりましたが、今大会の開催にご尽力をいただいた富山県、富山市そして高岡市、そしてまた、全国民生委員児童委員連合会をはじめ、関係者の皆様方に改めて心から感謝と敬意を申しあげ、そして全国の民生委員・児童委員の皆様方のさらなるご健勝とご活躍を大いにご期待を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成 27 年 10 月 15 日

厚生労働大臣 塩崎 泰久